

「道東育成会議」

～ 全ては「子どもたちの未来のために」を合い言葉に ～

日本サッカー協会（JFA）は、「JFA 2005年宣言（2015年に世界のトップ10を目指す）」という目標の実現を目指してさまざまな改革に取り組んでいます。これまでも何度か紹介しましたが、地域での改革がスムーズに進むように北海道では5人のユースダイレクターが活動しています。

道東ではユースダイレクター吉田誠氏の呼びかけに3回目の道東育成会議が昨年12月に開かれ、網走・帯広・釧路・根室の道東4地区のサッカー協会の2～4種の委員長（登録による区分。2種:高校、3種:中学、4種:小学生。）トレセン担当者、クラブ関係者が集まりました。実は、北海道では（全国的にも？）2～4種の指導者が一堂に会して、というのはあまり例がなく、「これからの道東の未来を担っていこう」という指導者の強い熱意を感じました。この会議では、帯広北高校の岩見監督を招き、道東の現状や課題を共有できるように全国大会の様子を含めてお話いただきました。さらに吉田氏より、道東の現状と課題についての提案がありました。これを受けて、種別に指導者が集まり、2009年度から始まる各地域のリーグ戦、3種のブロック・カブス・リーグ、2種のブロック・プリンス・リーグ、さらに各種別でのブロックトレセンについても話し合われました。



すでにご承知の通り、2009年度からは、全国大会につながるすべての地区予選が長期のリーグ戦になっていきます。ただし、改革の目的は、「長期のリーグ戦化」や「8人制の導入」にあるのではなく、サッカーをしている子どもたちをどう育てていくかにあります。その上でよりよい競技環境として「リーグ戦化」や「8人制の導入」を選択しているのです。例え、「リーグ戦化」したとしても、今までと同じような考え方では、子どもたちの成長に収穫は少ないかもしれません。「子どもたちをどう育てるか」、サッカーにかかわる指導者、保護者などの大人がこれまで以上に方向性を共有していくことが大切です。4種の全日本少年サッカー大会、3種・2種の高円宮杯の地区予選など競技環境は大きな変革の時期にあり、各地区での創造が求められています。

JFA2005 宣言実現のための ROAD MAP

- 1．競技環境：リーグ戦文化の定着
- 2．拠点整備：様々な活動の核として
- 3．U-12年代の重要性
- 4．キッズ年代の充実
- 5．トレーニング環境：指導者の質

ところで、釧路ではどんな子どもを育てますか？ 大いに議論したいところです。